

テキサス大学出版部から図書寄託される

さきに、アメリカ大学出版部協会の日本における「寄託図書館」(Depository Library)として本館が指定され、その第一陣としてプリンストン大学出版部から図書を受取ったが、このほど、第二陣としてテキサス大学出版部からも下記図書が寄託された。閲覧事務室のカウンターに展示しているのでご利用下さい。

テキサス大学出版部図書リスト。

Schmitt, Karl M. : Communism in Mexico ; a study in political frustration. March 1965.

Corke, Helen : D. H. Lawrence ; the croydon years. May 1965.

Collingwood, R. G. : Essays in the philosophy. of history Feb. 1965.

Cranfill, Thomas Mabry and Clark, Robert Lanier Jr. : An anatomy of the turn of the screw. May 1965.

Manuel, Herschel T. : Spanish-speaking children of the southwest ; their education and the public welfare. June 1965.

Lear, Floyd Seyward : Treason in Roman and Germanic law ; collected papers. May 1965.

Price, John Valdimir : The ironic Hume. June 1965.

Vagtborg, Harold, *ed.* : The baboon in medical research ; the proceedings of the First International Symposium on the baboon and its use as an experimental animal. March 1965.

プリンストン大学出版部追加図書リスト。

Coleman, James S., *ed.* : Education and political development. Studies in political development, 4.

Tarán, Leonardo : Parmenides. A text with translation, commentary, and critical essays.

Cairns, Stewart S., *ed.* : Differential and combinatorial topology. A symposium in honor of Marston Morse.

全国図書館大会の開催

昭和40年度全国図書館大会が11月25日より3日間熊本市で開催された。この大会は明治39年以来開かれてきた伝統ある集会であり、同県では50年ぶりの開催で県挙げての大会気分が盛り上がる中で、全国から図書館関係者及び利用者側の参加者3,000名をこえるマンモス大会となった。今大会の趣旨として、ひろく文化の全分野にわたって、国民の必要とする情報の伝達、資料の提供に役立つ資料センターとしての図書館の近代的な役割と機能を中心課題とした。第1日全体会議、第2日館種別部会、第3日全体会議をもって全日程を盛会のうちに終了した。ここでは第2日の大学図書館部会の模様を摘記してみる。この部会は大学図書館の施設および機構の近代化をいかに進めていくべきか一事例発表と協議題を中心に、われわれの当面する諸問題を討議した。全般的に見て旧き大学図書館像から新しい図書館像へ、保管のための図書館から利用のための図書館へいかにして有効な脱皮をなしとげるかという根本命題への・困難さと悩みとのいろいろな形での表白—ヴァリエーションであったといつてよい。

最後に大学図書館専門職員の教育計画についての協議題中、一発言者の「大学図書館員はそれぞれの学問分野で高度の専門知識を研さんしたものがなるべきである」との意見に対して、期せずして会場に満ちた賛意と共感の深さこそ、われわれ図書館員の資質の根本に関することだけに、強い感銘をうけたことを特記しておきたい。

特別講演会 —宋版大蔵経について—

12月4日(土)午後1時半より本館の主催で会議室において、竜谷大学教授小川貫弑氏によって上記の講演が行なわれた。梵文大蔵経の成立過程より、中国に伝来して800年に渉る漢訳時代を経て集大成され、写本形体から仰刷形体に移り、北宋の太祖開宝4年に勅版が計画され、太宗の太平興国8年(983)に開封府太平興国寺において大蔵経の仰刷が開始されたが、この勅版は神宗の熈寧4年(1071)に民間に移管され、欽宗の靖康2年(1127)金軍の入寇で廃絶した。神宗の時(1080頃)福州東禅寺では崇寧萬寿大蔵が開板されて元代1326頃まで続き、他方、徽宗の時(1112頃)福州開元寺において毘盧大蔵が開板されて元初(1298頃)まで続いた。元の興起とともに南宋においては湖州思溪蔵が欽宗靖康元年(1126)に円覚禅院において開板され、1276年元軍の兵火で経板が焼失した。また磧砂版が理宗紹定4年(1231)平江府磧砂延聖禅院において開板され、仁宗延祐2年(1315)に全大蔵経板が完雕された等の事情が説明された。講演後、本館所蔵の宋版について具体的に説明があって5時前に終了した。